

いのちの学習会における「迷っていますカード」の紹介  
筑波大学消化器外科 高橋一広

茨城県では、臓器移植・臓器提供に対する啓蒙活動として、平成15年より中高生を対象とした「いのちの学習会」を行ってきた。講師は移植医、救急医、看護師、移植経験者であり、私は2016年より移植医療に直接従事する移植外科医として、臓器移植の実際やそのジレンマなど、テレビやネットでは知ることのできない移植医療の実情を、生徒に伝えてきた。毎年約300人の生徒を対象に学習会を行っており、毎年それなりの反響もあるため、自身の講義をリピートしてくれる学校も7校ほどある。しかしながら、この8年の講師歴の中で、自身の講義で「臓器提供に対する押しつけはないのだろうか？」という疑問が生じ始めていたところであった。自身の講義の中で、「臓器提供する、しないの2択であり、臓器提供しないというのも立派な意思表示です。あなたたちは、自身で考えてこれを決定することが大切です。」と言うのが自身のスタンスであった。これといった解決法はなく、毎回講義を終えた後に、言い知れぬ違和感を近年感じていた。このような中、2024年9月の日本移植学会で、瓜生原先生の「迷っていますカード」の取り組みを直接お聞きし、大変な感銘を受けた。「迷っています。今は決められない。」、全くその通りだと同感した。中高生が、webやニュースで臓器提供をある程度知っていたとしても、自身の講義を聴いてたところで「臓器提供する、しない」を決めるということは無理があろう。自身にこういう発想がなかったが、「迷っていますカード」は中高生の実情を十分理解した上で発案されており、さらに生徒の行動変容を促すような選択肢も備えてあり、大変優れたカードであると考えられる。

このカードの譲渡を受け、2024年10月5日に土浦第一高等学校の医学進学特別クラス（高校1年生と2年の約30人ほど）に「いのちの学習会」を行った。臓器提供意思表示カードについての説明の中で、カードに表示されている3択（1.脳死心停止下いすれも臓器提供する、2.心停止下のみ臓器提供する、3.臓器提供しない）の説明に加えて、「迷っていますカード」も紹介し、「今すぐに決められない人もいるであろうから、今はこのカードを活用し、後々に決めていくのもいいと思います。」という形で説明をさせてもらった。今回が初めての試みであるため、自身としても説明が十分であったとも言えず、すぐに反響があるとも思えなかった。今後、講義の経験を重ねて、生徒にうまく伝えられる方法を探っていきたいと考えている。



2024年10月5日  
土浦第一高等学校  
医学進学クラスにて

2025.2.6-8 第58回臨床腎移植学会

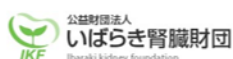


# —道徳教育で行う「いのちの学習会」 を通じた臓器提供の啓蒙—

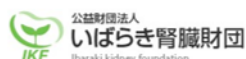


高橋一広<sup>1</sup>、臼井丈一<sup>2</sup>、渡壁英里<sup>3</sup>、須藤英世<sup>3</sup>、  
小田竜也<sup>1,3</sup>、山縣邦弘<sup>2,3</sup>

1. 筑波大学消化器外科
2. 筑波大学腎臓内科
3. 公益財団法人いばらき腎臓財団



演題発表に関連し、開示すべきCOI関係にある  
企業などはありません。



## —背 景—

- 日本の臓器提供数は増加傾向にあるものの、依然として国際的には少なく、待機患者に対して提供が極めて不足しているのが現状である。そのため、臓器提供に関する社会全体の理解を深めるとともに、積極的な取り組みが求められる。
- 平成20年より「公益財団法人いばらき腎臓財団」は腎移植の推進と普及啓発活動の一環として、茨城県の青少年に道徳教育の一環として、「臓器移植の普及啓発」を目的とした授業、「いのちの学習会」を始めた。「いのちの学習会」を通じた生徒から保護者への情報提供は、家族間の対話を促進するうえで有効であり、無関心層が臓器提供に関心を持つきっかけになることを報告した。

福田加奈子、他 茨城県における臓器移植に関する意識調査 2018 移植 53巻1号p. 63-70

## -いのちの学習会 中高生講義-

1. 「Hero」(日本移植ネットワーク)の動画
2. 臓器移植の基礎
3. 国内外の臓器移植現状
4. 意志表示ツールの説明・オプション提示の仕方
5. 渡航移植の是非
6. 「臓器提供を行った家族」(日本移植ネットワーク)の動画



JOT提供動画「HERO」



大人数での講演(100人以上)



少人数での講演(40人ほど)

## -臓器提供意思表示カード・迷っていますカード

### 改正臓器移植法



湯沢賢治先生 足立信也先生  
元参議院議員

“実際にカードを手に取ってもらう。”

### 臓器提供迷っていますカード

～迷ってもいい!小さな一歩を踏み出そう～



同社社商学部  
瓜生原葉子先生

表面上部: 今後しようと思うことのチェック欄  
迷いを解消していくためにあなたが今後しようと思うことに✓できます。

裏面下部: 公的な臓器提供意思表示欄  
あなたの意思を表示できます。  
※JOTおよび厚生労働省確認済み

## -グループ・ディスカッション

### シナリオ①

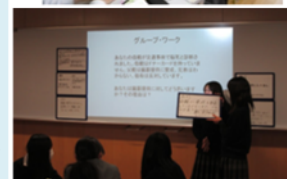
あなたの母親が交通事故で脳死と診断されました。母親はドナーカードを持っていません。父親は臓器提供に賛成、兄弟はわからない、祖母は反対しています。

あなたは**臓器提供に対して賛成ですか?反対ですか?**その理由は何?

“賛成=臓器提供に押しつけがましい?”

### シナリオ②

あなたは35歳になり、同じ年の配偶者、8歳の長女、5歳の長男の4人家族で楽しく過ごしています。ある日、長男は公園でボール遊び中、道路に飛び出し自動車による交通事故に遭いました。長男は救急車で病院に搬送され、主治医から「頭部外傷による脳死状態で、回復は難しい。」と伝えられました。あなたとご家族は、**臓器提供に対して賛成ですか?反対ですか?**その理由は何?



生徒による自分の意見をプレゼンテーションし、伝える

## -グループ・ディスカッション-

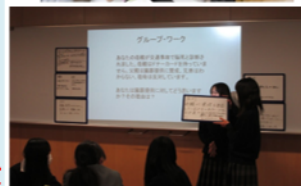
### シナリオ①

あなたの母親が交通事故で脳死と診断されました。母親はドナーカードを持っていません。父親は臓器提供に賛成、兄弟はわからない、祖母は反対しています。

あなたは臓器提供に対してどのように考えますか？その理由は？

### シナリオ②

あなたは35歳になり、同じ年の配偶者、8歳の長女、5歳の長男の4人家族で楽しく過ごしています。ある日、長男は公園でボール遊び中、道路に飛び出し自動車による交通事故に遭いました。長男は救急車で病院に搬送され、主治医から「頭部外傷による脳死状態で、回復は難しい。」と伝えられました。あなたとご家族は、臓器提供に進みますか？進みませんか？その理由は？



生徒による自分の意見をプレゼンテーションし、伝える

## -保護者・家族への情報伝達ツール-



画像出展：日本臓器移植ネットワーク HP

家族に今日（家族には、「Think transplant」も読んでもらいましょう。）

「迷ってます」から、次の一歩へ！



2人でできる！

臓器提供の意思表示はなんだか重い……  
1人で考えても決められない……  
そんな方のために、「2人で取り組める」意思決定支援ツールを開発しました！

意思決定支援ツール

「あなた」と「あなたの身近な人」がいくつかの質問に答え、その結果をみながら対話することで、楽しく知識を増やし、不安を払拭しながらお互いの考えを知ることができます。  
ぜひこの対話ツールを使ってお友達やご家族と臓器提供意思表示について話してみてください！

※迷ってまずカード裏面にもQRコードを記載しています。

意思表示のために  
お互いを知ってみよう

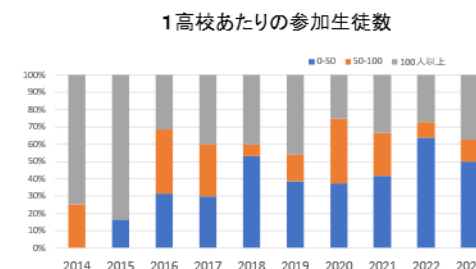
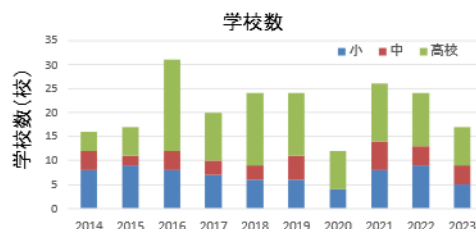
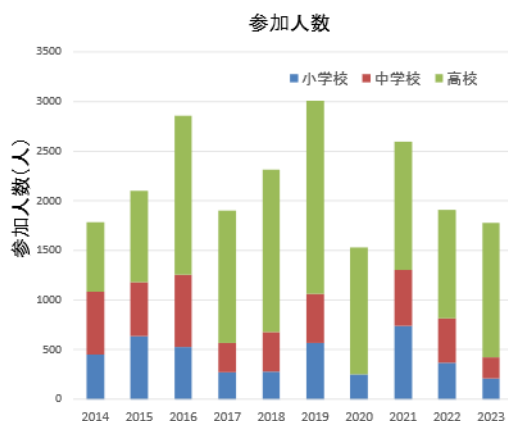
このツールは「あなた」と「身近な人」のふたりで臓器提供のための意思を確認するツールです

使い方

- まずは「あなた」が質問に答えてください
- 次に「あなたの身近な人」が質問に答えてください
- 結果をもとに、お互いがどんなことを考えているのか見て聞いて、話してみましょう

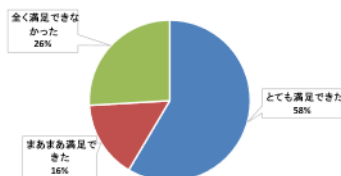
結果をほしめる

## -いのちの学習会 延べ参加人数・学校の推移-

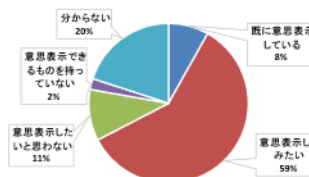


## -2024年度のアンケート結果-

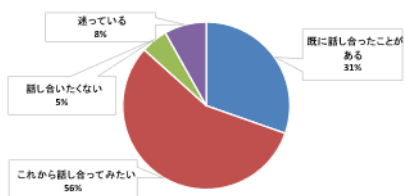
いのちの学習会に参加して、その内容に満足できましたか？



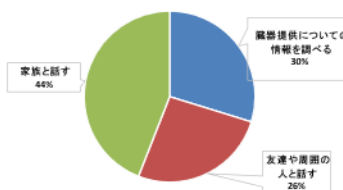
臓器提供意思表示についてお聞きます。



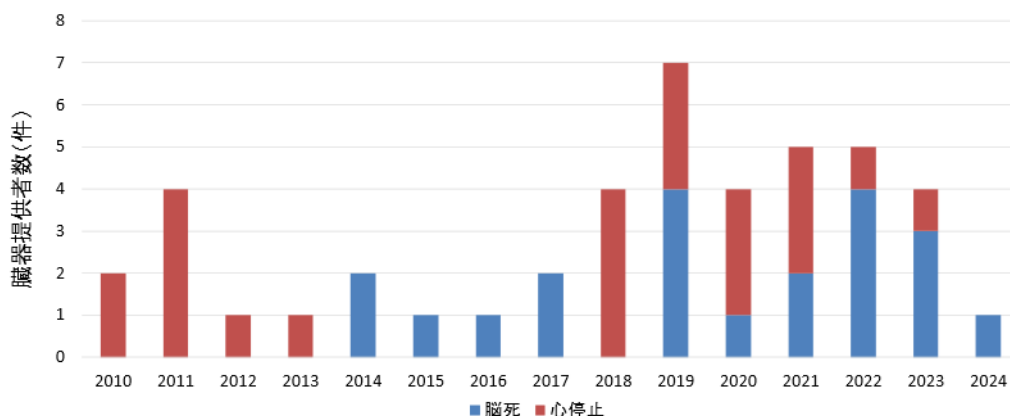
臓器移植について家族と話し合ってみたくは思いましたか？



臓器提供“迷ってます”カードをご紹介しました。カードの裏面にある「今後しようと思うこと」はありますか。



## -茨城県における臓器提供数-



## -まとめ-

- 「いのちの学習会」は17年以上の歴史の中で毎年1500～2000人の生徒に啓蒙活動を行ってきた。中高生向けの授業内容において、「賛成」・「反対」の2択を選ばせることは、時に提供を押し付ける側面がある。そこで、「迷っています」という選択肢を設けることで、生徒が講師の意見や顔色に左右されず、臓器提供について“真に”考えるきっかけになると考えている。
- 学習会をはじめ、マスメディアなどで臓器提供・移植に関する情報が広まり、社会全体で意識の変化が進んでいる。しかし、実際に茨城県での臓器提供の増加には繋がっておらず、臓器提供に結びつかない他の要因も考慮しなければならない。